

討論メモ

「コロナからの出口戦略」

令和 4年 2月 15日

1. 2月は表題について考えてみました。最初に下山健夫さんから、感染症医の武藤義和氏の掲載済の資料に基づいて、コロナの蔓延についての世界並びに日本の現状及びオミクロン株の特徴などについての説明がありました。

オミクロン株のおおよその特徴は把握できてきており、感染力は強いが重症者は少ない傾向が出ている。

また、ワクチンは感染予防に対しての効果は限定的だが、重症化を防ぐ効果はあり、入院患者の80-90%はワクチンの未接種者というデータもある。

出口戦略としては、

体制の見直し（分科会、保健所、政府メンバー）

経済の立て直し

入国規制の解除（留学生、ビジネス）

その他が考えられるとの説明があった。

2. 引き続き出席者8名による自由な討論に入り、下記のような意見が出されま

した。

・出口戦略はウイズコロナの中でどう日常を取り戻すかであって、ゼロコロナを目指すのではない。

・欧州では感染状況に差がないのに、英国では全面解除、独国では厳しい引き締めと国によって対応が分かれている。

・米国では三分の一の人が、政府の対策に不信感を持っておりワクチンは打たないでいるし、カナダではトラック運転手のワクチン拒否ストライキも起きている。

・カナダでは非常事態宣言まで出ている。

・今、ようやく感染症の分類を2類から5類に引き下げるべきとの意見が出始めているが、一昨年の早き段階でそのように決断していれば、こんな騒動にならずにすんでいた筈だ。

・政治家は万が一のリスクを取りたがらないので、2類のままで放置したのではないか。

・結局は5類に分類し直すことは避けて、なし崩し的に解除を進めるのではないか。

- ・ 出口戦略の前に、国民は何をすべきか、科学的根拠に基づく明確な指示を政府は出すべきだ。

- ・ 政府や専門医の説明は曖昧で、科学的根拠に乏しく、わかりにくい。

- ・ 日本の医療制度は遅れている。患者のデータ交換も病院間でできていない。

- ・ 町医者が中心の医師会も協力的でない。

- ・ 医学会も専門に分かれているが、細分化され過ぎて、全体が見通せなくなっている。

- ・ 出口戦略を語るの良しとして、食料やエネルギーの確保はできているのか。

- ・ 日本の対応は最上だったのではないか、各国よりも犠牲者は格段に少なかった。

- ・ 日本の風土の力だ。日本には仲間を見捨てない倫理がある。

- ・ 日本は、伝統的に生食を好むが、生食は国全体、社会全体に衛生観念が浸透している証左だ。

- ・ 日本の神道も祓い、清めの文化だ。

- ・ 清潔を重んじる気風は、縄文時代以来の日本の伝統と云えるかもしれない。

- ・今回の大変な苦しい体験を今後のプラスに繋げるようにすべきだ。
- ・今回も経済弱者が痛めつけられている一方で、株や不動産が値上がりしていて資産インフレの兆候だ。益々経済格差が広がる。
- ・欧米はインフレが進んでいるが、円安が進むと輸入インフレで食品などが値上がりする。対策が必要だ。
- ・本来なら消費減税を行うべきだが、その動きはないようで残念だ。
- ・消費税をなくして、資産税に切り替えるのも対策だ。

- ・江戸時代には、村長が村の富者、貧者のこともよく知り、必要に応じて富者に貧者への援助を支持していた。
- ・村長としては、村から乞食や罪人を出さないことが使命だった。
- ・江戸時代の税制は村請制だった。村長が適正に税負担を村人に割り当てていた。
- ・村と領主の間の不和が一揆となると領主の責任、更に混乱が発展すると藩主の責任が問われる公平な制度だった。
- ・江戸時代の仕組みはよくできていて、調べると日本はつくづく良い国だと実感する。

以上

